

07 放牧によって完成される里山

<動物多様性>

里山には、比較的小さな単位の中に多様な環境がモザイク状に存在しており、このような環境を適切に利用することによって人間は多大な恩恵を受け、自然もまた過度な人間の介入によって生物多様性を失わずである。この恩恵によって、森林管理の役割を人に代わって放牧が果たし、各エリアがロケーションのよさに異なり合うことで動物のコリドーが生まれ動物多様性、生物多様性に発展する。

昆虫類
特に蝶や蛾、甲虫、昆虫類の多様な種類、動物、菌類、鳥類などがある。昆虫は樹木と密接に関わりを持つ。成虫と成虫が通う餌を食うことが多いため、これらの放牧は昆虫に寛容である。

水生生物
水生生物は、生態系、移動力の大小により、水生生物、淡水生物、海産生物などに分類される。

動物類 (哺乳類)
里山における動物はアミロッドの上位、様々な動物種が生息している。里山は哺乳類にとって重要な生息場所である。鹿、羊、馬、豚、鳥など、多様な動物種が生息しているからである。

動物類 (鳥類)
西条谷々に様々な場所でも多くの種類の鳥類が生息していることが出来る。それぞれの鳥の種別に合った多様な環境がある。

休養、遊歩、分解を通じて、針葉樹林の土壌はつなぐつなぐ、動物種群 (図-10) となる。植物体は合成を行う生産者、動物はそれらを食べる消費者となる。生産者である植物を消費する食虫動物や草食動物が食べ、その昆虫の早急動物は肉食動物や哺乳類に食べられる。また、植物の落ち葉や枯れ枝、動物の排泄物や死骸などは、土中のミミズや、ガリなどの食うことで分解する。さらに土壌の微生物によって分解され、植物の成長が助長となる。



放牧による多様性分布図

図-10: 動物多様性

<植物多様性>

里山では水田、畑、ため池、二次林、草地などを形成し、適度に利用してきた。里山では多様な多くの野生生物、植物が生息し、高い植物多様性が維持されている。今回の放牧により、多様な植物群落形成されており、それぞれの環境ごとに異なる植物種で、多くの生物種が生息しており、良好な里地、里山環境が形成されている。

ススキ草地
全国に分布し、針葉樹林でも広く生息している。牛の糞などで食すため食草の枯れ残りや虫食いが少なく、再生の早い植物の成長が維持される。

カラマツ林スギ林
好気環境に生育するカラマツ科、土壌中深くは根を伸ばす樹木であり、半日射を必要とする環境である。日射が抑制されることで生育する。

ブナ・ミズナラ林
ブナとミズナラが生育する人の手でつくられた二次林は半日射を必要とする環境の樹木であり、多くの動物が生息する。

マコモ群集
水田を採取する稲刈りの後、田舎でマコモが生育し、マコモとマコモが生育する。マコモは田舎により土壌の食育にもなる。

里山の健全な維持するためには定期的な更新が必要である。更新更新 (図-11) とは人工的に手を加えずに自然に回復を行うこと。日光が林に入るようになり、小さな草花や樹木がそこに生息していた植物などが徐々に育っていく。更新更新をすることにより次世代の樹木に世代交代するため、社会が自然に回復を維持することが出来る。更新更新が必要な箇所は対象地域の約5%であり、間隔も10~20年と頻度は最も小さい。



放牧による多様性分布図

図-11: 更新更新